

令和2年度

鹿児島県公立高等学校
入学者選抜学力検査結果の概要

鹿児島県教育委員会

目 次

はじめに	2
1 第一次入学者選抜の状況について	2
2 総得点について	3
(1) 受検者の得点分布	
(2) 受検者(400点以上・360点以上・100点未満), 合格者(100点未満)の年度別推移	
3 各教科の平均点等について	4
(1) 受検者の平均点の年度別推移	
(2) 各教科の平均点	
(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ	
4 目安点をめぐる状況について	6
(1) 目安点未満の人数推移(過去5年間)	
(2) 目安点未満の地区別状況(出身中学校所在地別)	
(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況	
5 今年の特徴的な問題	8
(1) 国語における特徴的な問題	
(2) 社会における特徴的な問題	
(3) 数学における特徴的な問題	
(4) 理科における特徴的な問題	
(5) 英語における特徴的な問題	
6 国語について	13
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(国語)	
(2) 国語の問題	
(3) 国語の解答例	
7 社会について	17
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(社会)	
(2) 社会の問題	
(3) 社会の解答例	
8 数学について	22
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(数学)	
(2) 数学の問題	
(3) 数学の解答例	
9 理科について	28
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(理科)	
(2) 理科の問題	
(3) 理科の解答例	
10 英語について	34
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考(英語)	
(2) 英語の問題	
(3) 英語の解答例	

はじめに

令和2年3月5日、6日に、公立高等学校入学者選抜学力検査を実施しました。

検査問題の出題にあたっては、学習指導要領に示された目標に則し、小学校から中学校までの間に学習したことのうち、基礎的・基本的な事項及びこれらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力が検査できるように留意したところです。

この冊子では、公立高等学校への出願状況等や学力検査の得点などについて集計した結果に加え、「今年の特徴的な問題」で、各教科の「問題のねらい」や「中学生へのアドバイス」を紹介しています。小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

Ⅰ 第一次入学者選抜の状況について（推薦入学者選抜等に係る人数を含む。）

課 程	学 科	全 日 制						計	定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他			
募集 定員	2年度	6,116	760	1,840	1,960	520	758	11,954	84	12,038
	31年度	6,165	760	1,840	1,960	520	758	12,003	84	12,087
出願 者数	2年度	5,632	419	1,720	1,518	418	495	10,202	49	10,251
	31年度	6,055	506	1,711	1,681	445	437	10,835	39	10,874
受検 者数	2年度	5,438	409	1,650	1,487	411	485	9,880	45	9,925
	31年度	5,853	496	1,643	1,643	433	426	10,494	33	10,527
合格 者数	2年度	5,013	390	1,556	1,434	400	465	9,258	44	9,302
	31年度	5,280	466	1,553	1,582	420	413	9,714	33	9,747
受検 倍率	2年度	0.89	0.54	0.90	0.76	0.79	0.64	0.83	0.54	0.82
	31年度	0.95	0.65	0.89	0.84	0.83	0.56	0.87	0.39	0.87

- ・ 開陽高校の第3回・第4回入学者選抜に係る人数を含まない。
- ・ 普通には、理数科，文理科学科，文理科，情報科学科，体育科，音楽科，美術科，スポーツ健康科が含まれる。
- ・ 令和2年度の公立高等学校入学者選抜の受検者数は9,925人で、中学校卒業者の68.3%であった。
- ・ 受検倍率は、（受検者数）÷（募集定員）として算出した。

（参考）推薦入学者選抜，連携型中高一貫教育校入学者選抜及び帰国生徒等特別入学者選抜の状況

課 程	学 科	全 日 制						計	定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他			
出願者数		452	16	94	138	47	22	769	6	775
受検者数		447	16	94	136	47	21	761	6	767
合格者数		413	16	94	136	46	21	726	5	731

- ・ 推薦入学者選抜には、自己推薦入学者選抜を含む。

（参考）第二次入学者選抜の状況

課 程	学 科	全 日 制						計	定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他			
募集定員		1,104	370	284	526	120	276	2,680	31	2,711
出願者数		32	13	10	12	1	6	74	0	74
受検者数		32	12	10	12	1	6	73	0	73
合格者数		31	4	8	10	0	3	56	0	56

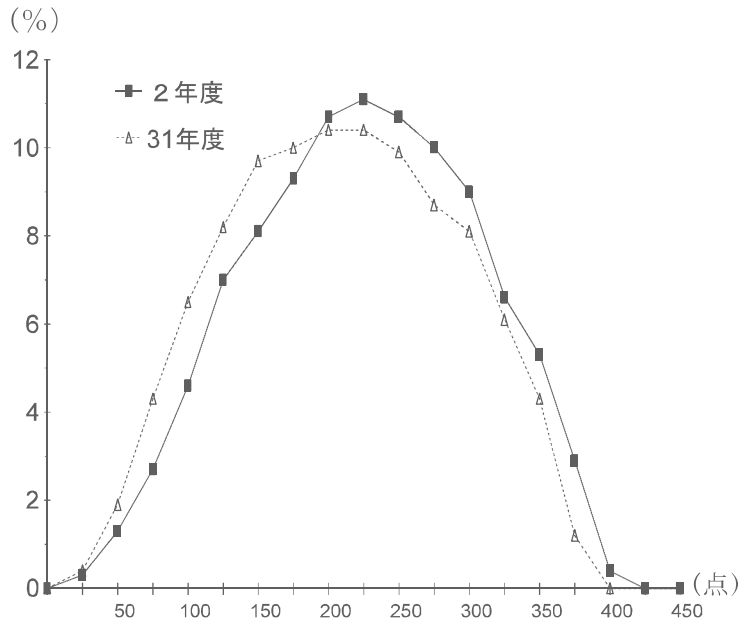
2 総得点について（全日制，定時制合計）

※ この項以降のデータは，すべて学力検査受検者についてである。

(1) 受検者の得点分布

- 平均点は前年度に比べて14.8点上がった。

令和2年度 236.2
平成31年度 221.4



得 点 分 布																			平均点
0	25	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400	425		
24	49	74	99	124	149	174	199	224	249	274	299	324	349	374	399	424	450		
0.0	0.3	1.3	2.7	4.6	7.0	8.1	9.3	10.7	11.1	10.7	10.0	9.0	6.6	5.3	2.9	0.4	0.0	236.2	

※ 得点分布は%で示した。

(2) 受検者(400点以上・360点以上・100点未満)，合格者(100点未満)の年度別推移

年 度	受 検 者								合 格 者			
	受 検 者 数	400点 以上 の 人数	400点 以上 の 割合 (%)	360点 以上 の 人数	360点 以上 の 割合 (%)	100点 未 満 の 人数	100点 未 満 の 割合 (%)	合 格 者 数	100点 未 満 の 人数	100点 未 満 の 割合 (%)	100点未 満 の 受 検 者 に 対 す る 割 合 (%)	
	A	B	$\frac{B}{A} \times 100$	C	$\frac{C}{A} \times 100$	D	$\frac{D}{A} \times 100$	E	F	$\frac{F}{E} \times 100$	$\frac{F}{D} \times 100$	
2	9,194	35	0.38	569	6.19	401	4.36	8,564	315	3.68	78.6	
31	9,774	4	0.04	348	3.56	649	6.64	8,987	507	5.64	78.1	
30	9,810	85	0.87	829	8.45	593	6.04	8,980	450	5.01	75.9	
29	10,303	43	0.42	701	6.80	554	5.38	9,501	423	4.45	76.4	
28	10,551	12	0.11	569	5.39	431	4.08	9,591	317	3.31	73.6	

3 各教科の平均点等について（全日制，定時制合計）

(1) 受検者の平均点の年度別推移

年度	総得点	国語	社会	数学	理科	英語
2	236.2	55.1	48.4	42.3	43.0	47.5
31	221.4	44.7	45.8	38.2	46.5	46.2
30	238.6	49.1	49.6	45.2	50.6	44.0
29	238.4	50.5	51.3	40.7	43.6	52.4
28	238.7	47.3	49.3	41.4	49.8	50.9

(2) 各教科の平均点

区分	課程・学科		総得点	国語	社会	数学	理科	英語
受 検 者	全 日 制	普 通	277.1	60.1	57.1	49.8	51.9	58.2
		専 門	187.6	49.1	38.0	33.4	32.5	34.7
		計	236.8	55.1	48.5	42.4	43.2	47.6
	定 時 制		114.9	38.6	21.7	17.7	16.9	20.1
	全 定 計		236.2	55.1	48.4	42.3	43.0	47.5
合 格 者	全 日 制	普 通	276.1	60.2	56.9	49.6	51.6	57.8
		専 門	189.9	49.6	38.5	33.7	32.9	35.1
		計	236.3	55.3	48.4	42.3	43.0	47.3
	定 時 制		116.3	39.0	22.0	17.8	17.1	20.4
	全 定 計		235.8	55.3	48.3	42.1	42.9	47.2

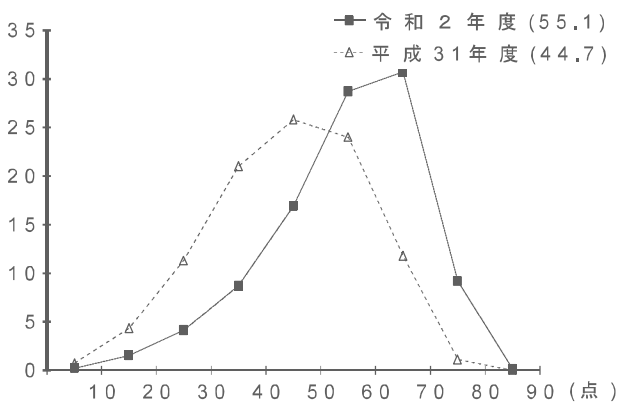
※ 普通には，理数科，文理科学科，文理科，情報科学科，体育科，音楽科，美術科，スポーツ健康科が含まれる。専門には，総合学科が含まれる。

(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ

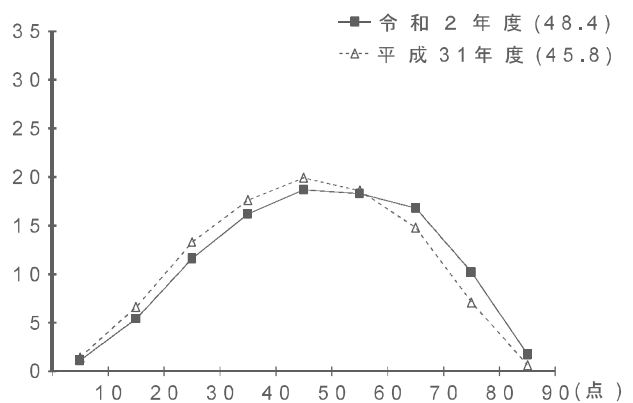
教科	得点分布								
	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90
国語	0.2	1.5	4.1	8.7	16.9	28.7	30.7	9.2	0.1
社会	1.1	5.4	11.6	16.2	18.7	18.3	16.8	10.2	1.7
数学	2.0	9.0	14.1	17.9	24.6	18.8	9.6	3.5	0.4
理科	2.9	10.2	16.1	18.2	17.1	14.6	11.8	7.0	2.2
英語	1.7	10.2	14.7	14.2	14.1	13.6	13.5	12.3	5.7

※ 得点分布は%で示した。

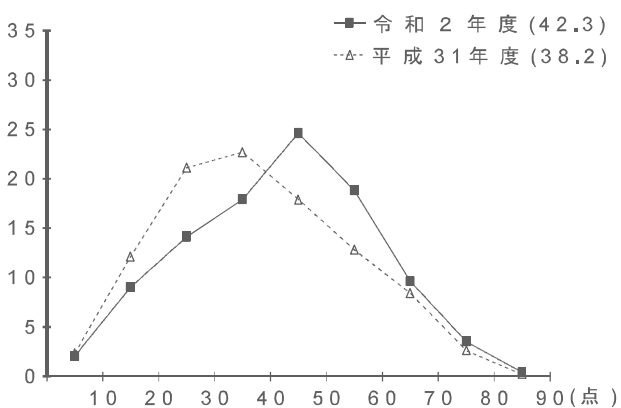
ア 国語



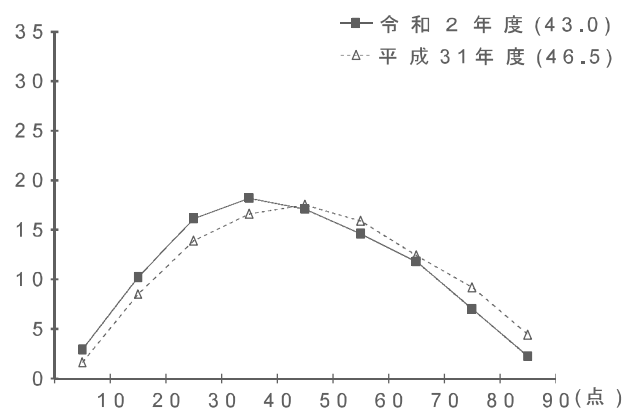
イ 社会



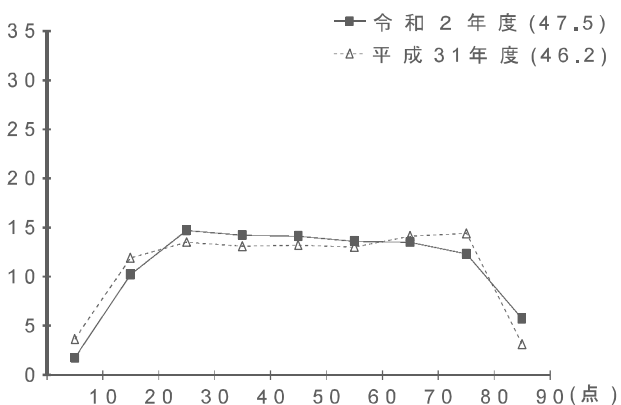
ウ 数学



エ 理科



オ 英語



() 内は平均点

4 目安点をめぐる状況について

(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）

単位 人

教科等	年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
国語		85 (0.9%)	299 (3.1%)	176 (1.8%)	238 (2.3%)	288 (2.7%)
社会		396 (4.3%)	517 (5.3%)	496 (5.1%)	404 (3.9%)	351 (3.4%)
数学		739 (8.0%)	944 (9.7%)	1,168 (11.9%)	1,231 (11.9%)	1,099 (10.4%)
理科		858 (9.3%)	657 (6.7%)	509 (5.2%)	964 (9.4%)	377 (3.6%)
英語		749 (8.1%)	1,133 (11.6%)	1,047 (10.7%)	431 (4.2%)	420 (4.0%)
5教科総点が目安点未満の人数		290 (3.2%)	458 (4.7%)	437 (4.5%)	408 (4.0%)	280 (2.7%)
目安点未満の教科を1教科以上持つ実人数		1,458 (15.9%)	1,783 (18.2%)	1,683 (17.2%)	1,688 (16.4%)	1,449 (13.7%)
受検者総数		9,194	9,774	9,810	10,303	10,551

※ 目安点は、基礎的内容の設問の合計点であり、国語・社会・数学・理科においては、小学校教材及びその関連教材の内容を含んでいる。

(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）

地区	受検者	目安点	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
			18点	18点	18点	18点	18点	90点
鹿児島	3,598 人		0.5 %	2.3 %	4.6 %	5.8 %	4.5 %	1.8 %
南薩	675 人		2.5 %	6.5 %	11.1 %	12.1 %	11.0 %	5.0 %
北薩	1,166 人		0.9 %	4.9 %	8.9 %	8.7 %	8.8 %	2.9 %
姶良・伊佐	1,446 人		1.0 %	4.9 %	8.5 %	9.2 %	8.9 %	3.7 %
大隅	1,063 人		1.8 %	6.3 %	11.9 %	13.7 %	11.0 %	4.5 %
熊毛	274 人		0.4 %	2.9 %	10.6 %	12.0 %	10.6 %	2.6 %
大島	666 人		0.8 %	8.7 %	14.4 %	19.7 %	16.4 %	6.2 %
県全体	9,194 人		0.9 %	4.3 %	8.0 %	9.3 %	8.1 %	3.2 %

※ 鹿大教育学部附属中学校、私立中学校等からの受検者数306人については、地区別人数に含まない。

(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況

【国語】

年 度	令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	観衆	祈(って)	誓(った)	著(しい)	就(く)	終 息	凝(らす)	臨(む)	快 諾	警 笛	膨(らむ)	陳 列	巡(る)	驚 嘆	割 愛
誤答者数 (人)	552	506	524	1,867	381	1,652	1,354	3,120	3,178	4,914	463	3,266	612	5,792	3,387
割 合 (%)	6.0	5.5	5.7	19.1	3.9	16.9	13.8	31.8	32.4	47.7	4.5	31.7	5.8	54.9	32.1

年 度	令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	勇(ましい)	幕	冷 静	似(た)	批 評	混 雑	尊 敬	供(え)	植 樹	寒 暖	険(しい)	奮 起	登 頂	群(れ)	順 延
誤答者数 (人)	2,354	3,669	2,179	1,016	2,825	1,564	2,482	4,964	7,681	3,214	1,339	6,820	2,342	1,794	5,497
割 合 (%)	25.6	39.9	23.7	10.4	28.9	16.0	25.3	50.6	78.3	31.2	13.0	66.2	22.2	17.0	52.1

【数 学】

年 度	令和2年度		平成31年度		平成30年度	
	計 算 式	$8 \div 4 + 6$	$1/2 + 9/10 \times 5/3$	$5 \times (6 - 2)$	$1/4 + 5/3 \div 10/9$	$5 + 4 \times 6$
誤答者数 (人)	423	800	547	919	451	1,756
割 合 (%)	4.6	8.7	5.6	9.4	4.6	17.9

年 度	平成29年度		平成28年度	
	計 算 式	$83 - 45 \div 9$	$0.2 \times 5/8 + 3/16$	$8 + 54 \div 6$
誤答者数 (人)	525	1,761	454	739
割 合 (%)	5.1	17.1	4.3	7.0

5 今年の特徴的な問題

(1) 国語における特徴的な問題

3 4 次は、本文をもとにした話し合いの場面である。I～IIIに適切な言葉を補って会話を完成させよ。

[問題のわらい]

- 中学校学習指導要領「読むこと」、「話すこと・聞くこと」の指導事項に関する問題。特にIIIについては、「話すこと・聞くこと」の領域の問いとして、冒頭の先生の発言を聞き、生徒の立場で話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 日常生活の中から話題を決め、周囲の人たちの意見を聞いたり、話し合ったりして、お互いの考え方を共有してみましょう。それをきっかけとして、関連する書籍等の読書活動や他教科での学びに発展させましょう。
- 古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを体感してみましょう。現代との共通点や相違点について考えてみましょう。

5 資料1は「古典をマンガで読むこと」についての議論をするにあたって、山田さんが考えたことを事前にまとめたメモである。また資料2は、実際に議論をしたときの記録の一部である。資料2の空欄に入るように、後の条件に従って文章を書きなさい。

[問題のわらい]

- 「古典をマンガで読むこと」について議論を行った際のメモと議論の記録という複数の資料をもとに、二人のやり取りが成立するように、古典の言葉を学習することの意義や言葉と文化の関わりについて、論理的に意見を構築し表現する力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 複数の資料から情報を的確に読み取り、自分の考えたことや感じたことを文章にまとめてみましょう。その際、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫してみましょう。
- 古典を学習する際に、昔の言葉が今の自分たちが用いている言葉とどのようにつながっているか考えたり、言葉と文化の関わりについて述べられた本を読んだりするなど、日常生活の中にある言葉との出会いを大切にしましょう。

(2) 社会における特徴的な問題

1 Ⅲ 次は、中学生のAさんが資料を参考に自宅周辺の防災についてまとめたレポートである。Aさんのレポートを完成させよ。ただし、**X**には、←で示した経路⑥か経路⑦のいずれかを選択し、解答用紙のあてはまる方を○で囲み、**Y**にはAさんがそのように判断した理由として考えられることを資料から読み取って書け。Aさんのレポート

この資料の中には、洪水のときに浸水する可能性がある地域が示されており、これによると、私の家も浸水予想地域に含まれています。大雨などにより洪水のおそれがあり避難場所に避難しなければならなくなったときの経路としては、この資料で考えると**X**を選ぶべきです。それは、**Y**からです。

※Aさんの家から経路⑥、経路⑦を通して避難する際には、障害物や交通遮断などはないものとして考えること。
※資料中の-----線は、浸水予想地域の境界線を示す。

資料

(国土地理院の資料などから作成)

社-3

[問題のわらい]

- 地理的な見方や考え方を働かせて、資料から情報を読み取る技能や、位置や空間的な広がりに着目して捉える思考力、判断力をみるとともに、論理的に表現する力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 地域調査でレポートを作成する際には、図や表を使ったり地図上に表現したりすることや、要点を自分の言葉で簡潔にまとめることを大切にしましょう。
- 身近な地域のハザードマップを読み取ったり、過去に起こった自然災害について調べたりしながら、防災対策について考えてみましょう。

3 6 ⑥の一つに地球温暖化問題があげられる。2015年に採択されたパリ協定では、発展途上国を含むすべての参加国が温室効果ガスの削減目標を定め、地球温暖化を抑える対策をすすめることで合意した。しかし、合意するまでには、排出削減をめぐる先進国と発展途上国の間で意見の対立もあり長い時間がかかった。資料3のような意見に対して、発展途上国は、どのような意見を述べていたと考えられるか。資料4をもとにして書け。

資料3 温室効果ガスの排出削減をめぐる先進国の主な意見

地球温暖化は人類共通の課題である。発展途上国の中にも急速な工業化で温室効果ガスを多く排出している国もあり、すべての国が排出削減を行うべきである。

資料4 二酸化炭素の累積排出量(1850～2005年)の割合

アメリカ	39.5%
中国	11.2%
ロシア	10.9%
ドイツ	9.5%
イギリス	8.2%
日本	6.1%
フランス	3.9%
インド	3.1%
カナダ	3.0%
その他	5.6%

(独立行政法人国際協力機構の資料から作成)

[問題のわらい]

- 地球温暖化問題について、対立と合意などの現代社会をとらえる見方や考え方と関連付けながら複数の資料を活用して考察する力と、考えたことを論理的に表現する力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 社会生活に見られる様々な事例について考えたり、課題を探究したりする際に、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用するようにしましょう。

(3) 数学における特徴的な問題

- 1 5 国土地理院のまとめた「日本の山岳標高一覧 (1003 山)」に掲載されている鹿児島県の標高 1000 m 以上の山 (山頂) は 8 つある。8 つの中で最も高いものは屋久島にある宮之浦岳であり、その標高は 1936 m である。下の表は、残り 7 つの山 (山頂) の標高を示したものである。標高を 1.5 倍したときに、宮之浦岳の標高を上回るものはどれか、下のア～キの中からあてはまるものをすべて選び、記号で答えよ。

	山名 (山頂名)	標高 (m)
ア	紫尾山	1067
イ	霧島山 (韓国岳)	1700
ウ	霧島山 (新燃岳)	1421
エ	御岳	1117
オ	高隈山 (大籠柄岳)	1236
カ	高隈山 (御岳)	1182
キ	永田岳	1886

(国土地理院「日本の山岳標高一覧 (1003 山)」から作成)

【問題のねらい】

- 数量の関係に着目して、目的に応じて見通しをもって効率的に処理し、考察することができるかをみた。
- 割合についての理解をみるとともに、小数の乗除の計算ができるかをみた。

【中学生へのアドバイス】

- 計算する力を伸ばすとともに、目的に応じて式の計算や変形ができるようにしましょう。
- 授業では、よりよい解決方法を見出すために、様々な考えを出し合い、議論できるようにしよう。

- 4 次の会話文は「課題学習」におけるグループ活動の一場面である。ひろしさんとよしさんのグループは、写真の観覧車を題材に数学の問題をつくらうと考えた。以下の会話文を読んで、次の 1～3 の問いに答えなさい。

写真

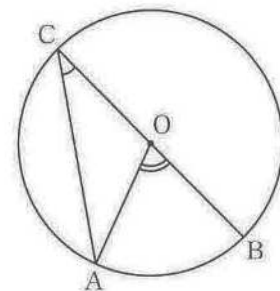


よしこ：実際に図をかいて角の大きさを測ってみたら、さっきの $\angle XOY$ の半分になったよ。そういえば、1 つの弧に対する円周角は、その弧に対する中心角の半分であるって習ったよね。

- 2 会話文中の下線部について、次の問いに答えよ。

図 2 は、線分 BC を直径とする円 O の周上に点 A をとったものである。図 2 において、 $\angle ACB = \frac{1}{2} \angle AOB$ が成り立つことを証明せよ。

図 2



【問題のねらい】

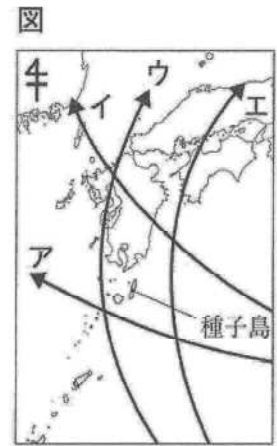
- 日常生活や社会における事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理することができるかをみた。
- 円周角と中心角の関係に着目し、論理的に考察し表現することができるかをみた。

【中学生へのアドバイス】

- 日常生活や社会の事柄に対して「なぜ」と疑問を抱いたり、「このようなことがいえないか」と予想を立てたりするとともに、数学で学んだことを根拠にしなが筋道を立てて説明できるようにしましょう。

(4) 理科における特徴的な問題

1 7 図のア～エは、台風の進路を模式的に示したものである。ある台風が近づいた前後の種子島での観測記録を調べたところ、風向きは東寄りから南寄り、その後西寄りへと変化したことがわかった。また、南寄りの風のときに特に強い風がふいていたこともわかった。この台風の進路として最も適当なものはア～エのどれか。



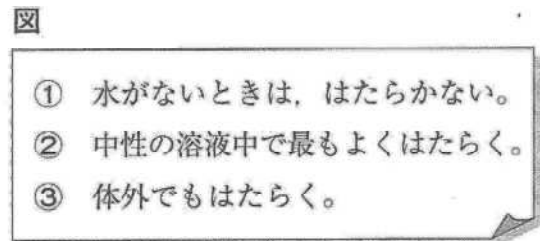
[問題のねらい]

- 観測記録の風向きから、低気圧のまわりの風の吹き方と台風の進路を関係付けて解答する論理的思考力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 低気圧の概念を基に台風について説明できるようにしましょう。
- 本問題の解答を選んだ理由（考え）を自分なりに下の□にまとめてみましょう。まとめた内容を友達等に伝えて意見をもらい、その後、理由をあらためてまとめてみましょう。

4 II
4 図は、実験の後に、たかしさんがだ液にふくまれる消化酵素の性質について本で調べたときのメモの一部である。これについて、次の2人の会話の内容が正しくなるように、□にあてはまるものとして最も適当なものを、図の①～③から選べ。



たかしさん：だ液にふくまれる消化酵素には、①～③の性質があることがわかったよ。
ひろみさん：それなら、その性質を確かめてみようよ。
たかしさん：あっ、でも、□の性質は、今回の実験で確認できているね。

[問題のねらい]

- 主体的に題材について、調べて新たに課題を見いだす過程を通して、仮説を確かめるための実験の計画を立案する力及び読解力をみた。

[中学生へのアドバイス]

- 観察、実験を何のために行うのか、どのような結果が予想されるかを常に考えるようにしましょう。
本問題の正答「③」以外の①と②の性質が本問題の実験で確認できていないと考えられる理由を確認するためにはどのような実験の計画を立案すればよいか考えてまとめてみましょう。

(5) 英語における特徴的な問題

- 1 6 これから、Naomi と Sam との対話を放送します。その中で、Naomi が Sam に質問をしています。Sam に代わってあなたの答えを英文で書きなさい。2文以上になってもかまいません。書く時間は1分間です。

【放送された英文】

Naomi : Our classmate Miyuki will leave Kagoshima and live in Fukuoka from next month. We have to say goodbye to her soon.

Sam : Really? I didn't know that. I'm very sad.

Naomi : Me, too. Well, let's do something for Miyuki. What can we do?

【問題のわらい】

- リスニング形式の問題で、転校するクラスメートに対してできることを1分間で考えて書くことで、実際のコミュニケーション場面により近い状況で返答を求めた。

【中学生へのアドバイス】

- 自分の気持ちや考えに近い英語の表現を教科書から選んで使ってみたり、習った語句を活用したりして、相手に話すようにしましょう。
- 日常生活の場面（家庭や学校などの身近な場面、道案内や買物など）でよく使われている表現をノートなどにまとめておき、授業中などで積極的に使って話すようにしましょう。

- 4 7 次は、中学校での最後の試合が終わった後の Mike と Mike の父親との対話である。Mike に代わって [] に10語以上の英文を書け。2文以上になってもかまわない。また、符号（.や?など）は語数には含めない。

Father : How was the tournament ?

Mike : I couldn't play, but I felt fulfilled. Dad, we watched a soccer game played by little children. Do you remember it? That day was a big day for me.

Father : What do you mean ?

Mike : Before I broke my leg, I played soccer just to perform well and win games.

Father : You learned an important thing from him, right ?

Mike : Yes. John is my little teacher.

【問題のわらい】

- 主人公と父親との中学校での最後の試合後の対話という設定である。少年ジョンがプレーする試合の観戦とジョンとの会話を通して、主人公マイクがサッカーを楽しむことの大切さについて気づき、その後中学校での最後の試合には選手として出場できなかったにもかかわらず、応援を通して充実感を得られたという経緯を読み取れているかを問うた。
- 物語文に関連する対話を完成させることで、内容理解に基づき表現する力をみる意図で出題した。

【中学生へのアドバイス】

- 物語文は、本文中の根拠を基に場面と登場人物の心情の変化など考えて読みましょう。
- まとまりのある文章を読んで、概要や要点を図や表でまとめる活動をしてみましょう。
- 読んだ内容を基に、自分が登場人物の立場だったらどうするか、自分の事として捉えて、気持ちや考えを話したり、書いたりして表現するようにしましょう。